延岡市文化財報告書第40集

殿上遺跡

村づくり交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009年

延岡市教育委員会

「殿上遺跡」正誤表

	誤	正
頁	内　　容	内　　容
例言	2．調査は延岡市教育委員会が主体となり、同北方教育課社会教育課主査小野信彦が担当した。	2．調査は延岡市教育委員会が主体となり、同北方教育課社会教育係主査小野信彦が担当した。
5	5．遺構実測図 1号溝状遺構の土層断面図中の②	③に変更

序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しまして深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。延岡市教育委員会では、北方町蔵田地区内に所在する埋蔵文化財調査を実施しました。本書は、その報告書です。

本書の刊行を通しまして、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたってご協力をいただきました市民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化財課、北方農林課、蔵田区など関係機関の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

延岡市教育委員会
教育長　　町田　訓久

例　　言

1．本書は、平成２０年度蔵田（駄小屋）地区農道整備事業に伴い北方農林課の委託を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2．調査は、延岡市教育委員会が主体となり、同北方教育課社会教育課主査　小野信彦が担当した。
3．本書に使用した遺構・遺物の実測・トレース・図面作成は、小野信彦、甲斐美智代、橋本継美、原田洋子、仁尾佐代子が行なった。
4．現場及び遺物の写真撮影は、小野が行った。空中写真の撮影は、九州航空（株）が行った。
5．方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海抜高である。
6．本書の執筆・編集は、小野が行った。
7．本書で使用した写真・図面については、延岡市教育委員会で保管している。
8．出土遺物は、延岡市教育委員会にて保管しており、今後展示公開の予定である。

目　　次

Ⅰ　はじめに
1．位置と歴史的環境…… 1
2．調査に至る経緯…… 1
3．調査の組織 …… 1
Ⅱ　調査の内容
1．調査の概要 …… 3
2．基本層序 …… 3
3．遺構と遺物 …… 3
Ⅲ　おわりに …… 7
報告書抄録 …… 10

挿図・表・写真目次

1．延岡市北方町主要遺跡位置図（1/60,000）…… 2
2．延岡市北方町主要遺跡一覧表…… 2
3．調査区位置図（1/800）…… 3
4．遺構配置図（1/400）…… 4
5．遺構実測図（1/30,1/40,1/60）…… 5
6．出土遺物実測図（1/3） …… 6
7．出土遺物観察表…… 6
8．殿上遺跡空中写真①（北東から）…… 7
9．殿上遺跡空中写真②…… 8
10．1区・2区空中写真…… 8
11．3区空中写真…… 8
12．4区近景（南から）…… 8
13．5区・6区空中写真…… 8
14．6区近景（南西から）…… 8
15．1号溝状遺構検出状況（1区・北東から）…… 9
16．段状遺構検出状況（1区・北東から）…… 9
17．段状遺構検出状況（2区・北東から）…… 9
18．1号土坑検出状況（3区・北西から）…… 9
19．2号土坑検出状況（6区・北東から）…… 9
20．出土遺物（№1～11）…… 9

Ⅰ. はじめに

1.位置と歴史的環境

殿上遺跡が所在する延岡市北方町は、宮崎県の北部に位置し、南は門川町・美郷町北郷区、西は西臼杵郡日之影町、北は大分県佐伯市と境を接する。南部を九州山地に源を発する五ヶ瀬川が流れる。北には1,000m級の大崩山・鬼の目山などの山々が連なる。五ヶ瀬川流域や曽木川流域には、阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、遺跡の大部分が集中する。

殿上遺跡の北西には、AT層下位より石核等が出土した矢野原遺跡がある。縄文時代では、矢野原遺跡、蔵田遺跡等で早期の押型文土器・集石遺構が検出されている。前期では笠下下原遺跡で轟B式土器・曽畑土器等が、中期では笠下下原遺跡等で船元式土器が出土している。後期では菅原洞穴で鐘ヶ崎式土器等が、晩期では南久保山小堀町遺跡で黒色磨研土器が出土している。

弥生時代では、昭和28年に板付Ⅱ式土器と思われる土器片が採集されて、宮崎大学に保管されている。後期初頭には瀬戸内系土器の移入も見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡が、矢野原遺跡、打扇遺跡、蔵田遺跡、早日渡遺跡等で検出されている。

古墳時代では、後期の箱式石棺が殿上、矢野原、駄小屋、後曽木等で発見されている。昭和12年に県指定史跡となった『北方村古墳』も、後期箱式石棺群の一つである。

古代では、速日峰地区遺跡や南久保山小堀町遺跡等で若干の遺物が出土している程度である。中世になると、町内各地で六地蔵や五輪塔等が散見される。中世山城跡として蔵田城や仲畑城があるが、笠下遺跡等では祭祀遺構が検出され、備前焼のすり鉢や明銭等が出土している。近世は延岡藩領となり、木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ、明治新政府へと引き継がれた。

2.調査に至る経緯

北方農林課では、平成17年度から実施している村づくり交付金事業の内、蔵田(駄小屋)地区における農道整備事業を計画し、工事予定地内の埋蔵文化財についての照会を、平成19年11月26日付けで延岡市教育委員会に行った。工事予定地内の確認調査を行なった結果、遺跡と判断された。その後協議を重ね、工事着手前に本調査を実施することになった。

本調査は平成20年8月5日から10月12日にかけて実施し、引き続き整理作業及び報告書作成作業に入った。

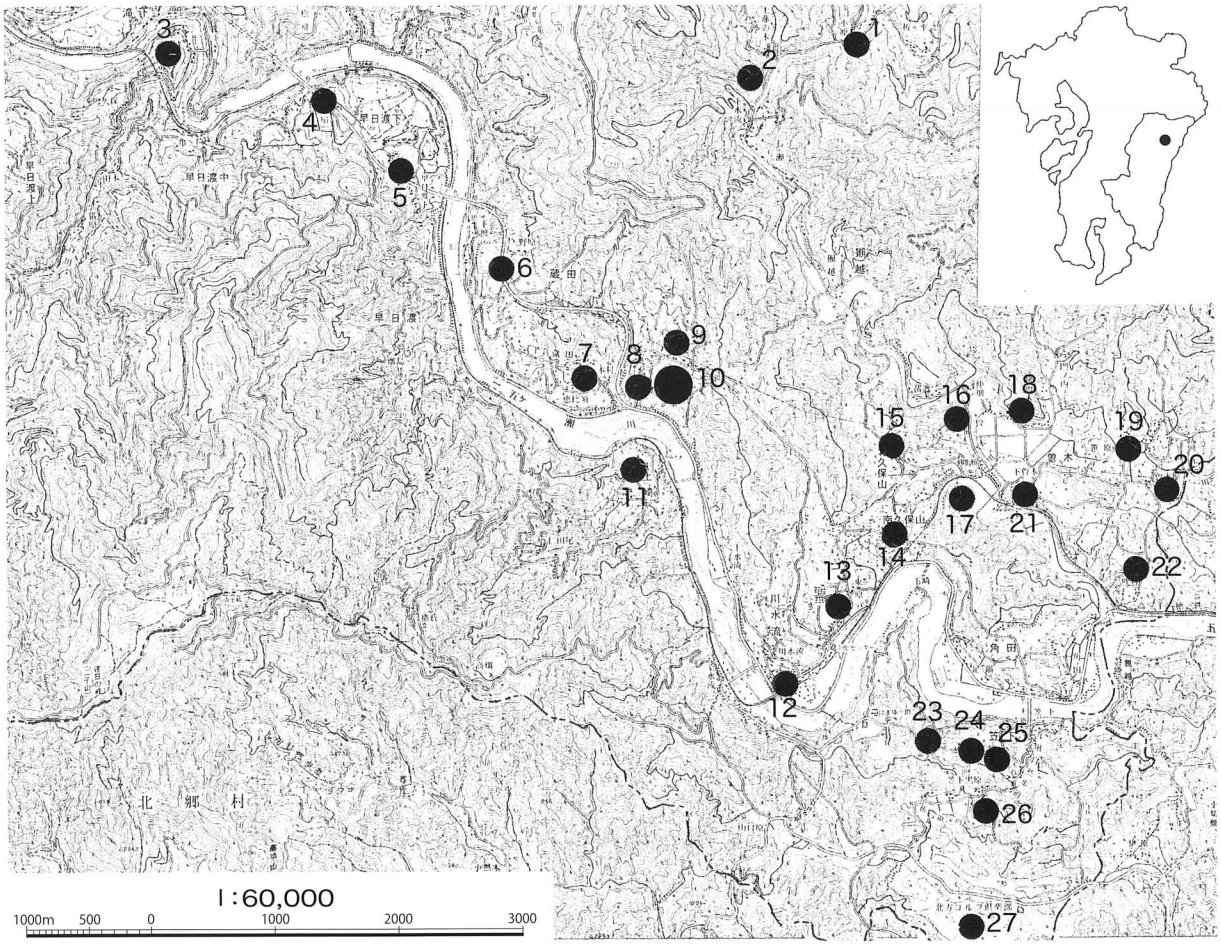
3.調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査主体　延岡市教育委員会

教育長	町田 訓久	教育部長	笠江 孝一
文化課長	渡邉 博吏	北方教育課長	大村 望
文化課課長補佐	大島 紀世子	北方教育課長補佐	鬼塚　重敏
文化課文化財係長	赤星　清次		

庶務担当	文化課文化振興係主任主事	松岡　直子
	北方教育課社会教育係長	春田　清子
調査担当	北方教育課社会教育係主査	小野　信彦
調査指導	宮崎県文化財課	
調査協力	宮崎県埋蔵文化財センター、宮崎県総合博物館、宮崎県立西都原考古博物館、宮崎県市町村埋蔵文化財担当者及び地元関係各位	



1.延岡市北方町主要遺跡位置図(1/60,000)

番号	名称	所在地	種別	時代	備考
1	小原遺跡	板下(小原)戌	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
2	藤の木桑水流遺跡	藤の木(桑水流)酉	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
3	城遺跡	早上(城)巳	中世山城	縄文～近世	山城の大部分は削平されている
4	打扇遺跡	早中(打扇)巳	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
5	早日渡遺跡	早日渡巳	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
6	矢野原遺跡	蔵田(矢野原)辰	集落跡	旧石器～近世	平成5年調査、一部消滅
7	蔵田遺跡	蔵田辰	集落跡	旧石器～近世	昭和62年～平成5年調査、一部消滅
8	蔵田城	蔵田辰	中世山城	中世	堀等が良好に残る
9	駄小屋遺跡	蔵田(駄小屋)辰	散布地	旧石器～近世	
10	**殿上遺跡**	**蔵田(戸の上)辰**	**散布地・石棺群**	**旧石器～近世**	**石棺群は消滅**
11	上崎地区遺跡	蔵田(上崎)辰	集落跡	旧石器～近世	平成12年度～19年度まで調査、一部消滅
12	川水流遺跡	川水流卯	集落跡	旧石器～近世	中世山城の可能性、一部消滅
13	東原遺跡	川水流(東原)卯	散布地	旧石器～近世	一部消滅
14	南久保山小堀町遺跡	南久保山(小堀町)子	集落跡	旧石器～近世	一部消滅
15	北久保山遺跡	北久保山子	散布地	縄文～近世	
16	仲畑城跡	獺越(仲畑)子	中世山城	中世	堀等が残る
17	壱丁鐘遺跡	曽木(壱丁鐘)子	石棺群	古墳	県指定北方村古墳1号墳
18	後曽木遺跡	曽木(後曽木)子	散布地・石棺群	古墳	県指定北方村古墳3号墳
19	笹原遺跡	曽木(笹原)子	散布地	縄文～近世	
20	曽木原遺跡	曽木(曽木原)子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
21	古城遺跡	曽木(古城)子	散布地・中世山城	旧石器～近世	一部消滅
22	黒仁田遺跡	曽木(黒仁田)子	散布地	縄文～近世	
23	上田下遺跡	笠下(上田下)寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
24	岩土北平遺跡	笠下(岩土北平)寅	散布地	旧石器～近世	
25	岩土原遺跡	笠下(岩土原)寅	散布地	旧石器～近世	昭和44年南九州短大により調査
26	笠下下原遺跡	笠下(下タノ原)寅	散布地	旧石器～近世	下原は通称名
27	笠下ゴルフ場遺跡	笠下(塩田外)寅	集落跡	旧石器～近世	一部消滅

2.延岡市北方町主要遺跡一覧表

Ⅱ. 調 査 の 内 容

1．調査の概要

調査は、昨年度行った確認調査の結果と、工事との調整により6ヶ所に分けて行った。1区では、溝状遺構を1基と段状遺構を検出した。2区では柱穴と段状遺構を検出した。3区では土坑を1基検出した。4区と5区では遺構の検出はなかったが、弥生土器が出土している。6区では土坑を１基検出した。遺構は、すべてアカホヤ層上面から掘り込まれている。遺構に伴う遺物は無く、時期については不明である。縄文時代早期の包含層から無文の縄文土器が若干出土しているが、それ以外はほとんど埋土中より出土している。

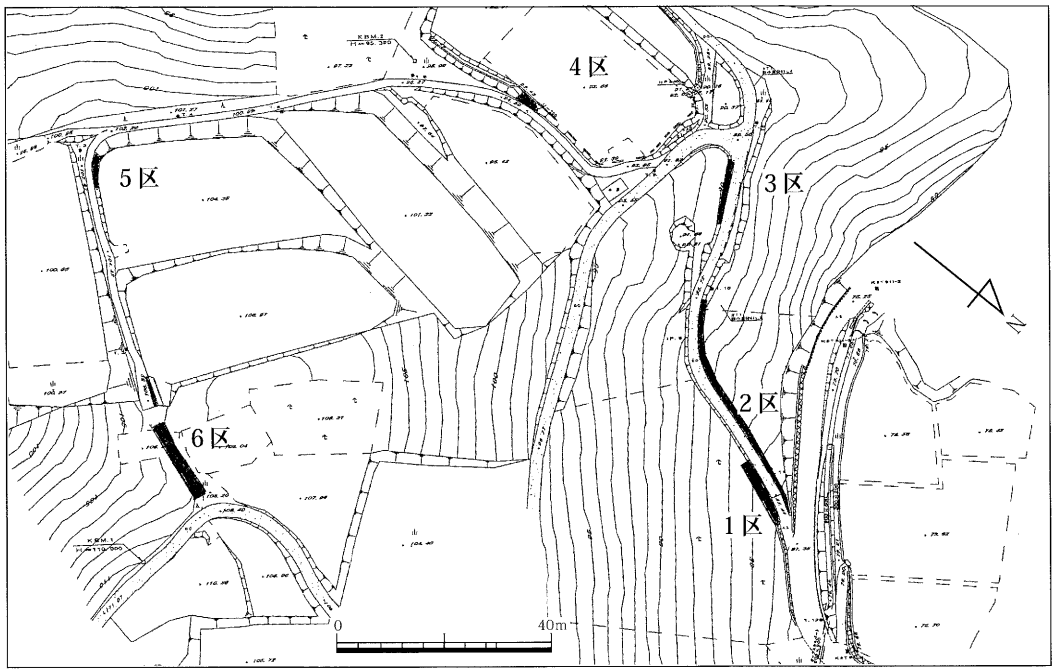
2．基本層序

本遺跡の基本層序は以下の通りである。

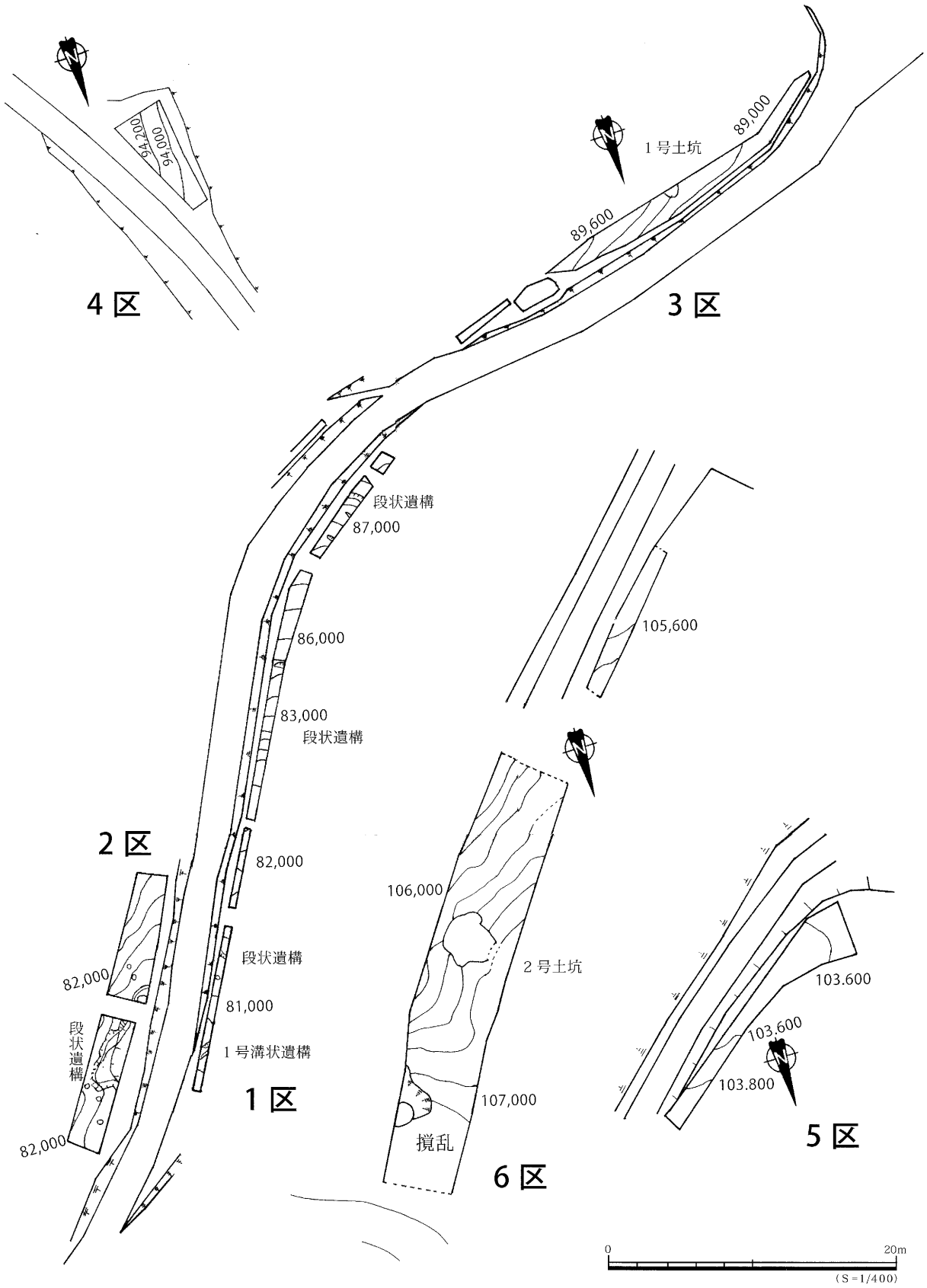
Ⅰ層…表土層（約20cm）
Ⅱ層…茶褐色土層（約20cm）
Ⅲ層…黒色土層。パサつく。（約30cm）一部を除き削平されている。
Ⅳ層…アカホヤ層（約20cm）
Ⅴ層…黒褐色土層（約20cm）やや粘質。縄文時代早期の遺物が出土。
Ⅵ層…黄褐色土層（約20cm）粘質。

3．遺構と遺物

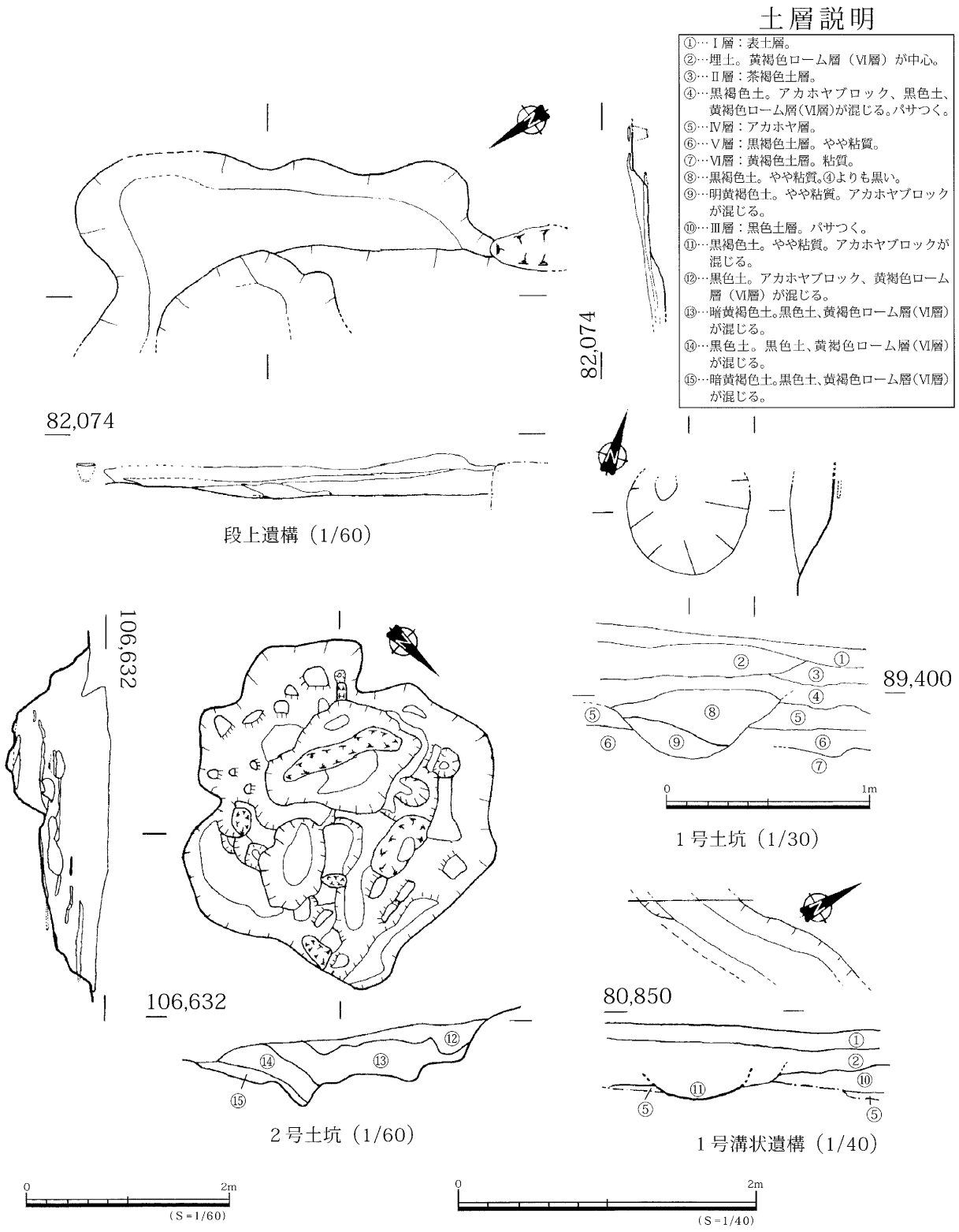
段状遺構は1区と2区のアカホヤ層上面で検出した。高さが約20cmのしっかりとした段のものと3～5cm程度の浅く段が不明瞭なものがある。段としては明瞭ではないが、２区での等高線の広がりに見られるように傾斜地に何とか小規模な平坦部を作り出そうとしている。傾斜部ではアカホヤ層はやわらかくパサつくが、平坦部のアカホヤ層は硬くしまっている。2区の段状遺構周辺の柱穴との関連については不明である。出土遺物は無い。1号溝状遺構は、検出面から底までの深さは10cm程で、撹乱により上部が削られ土層断面の観察でようやく確認した。出土遺物はない。



3．調査区位置図（1/800）

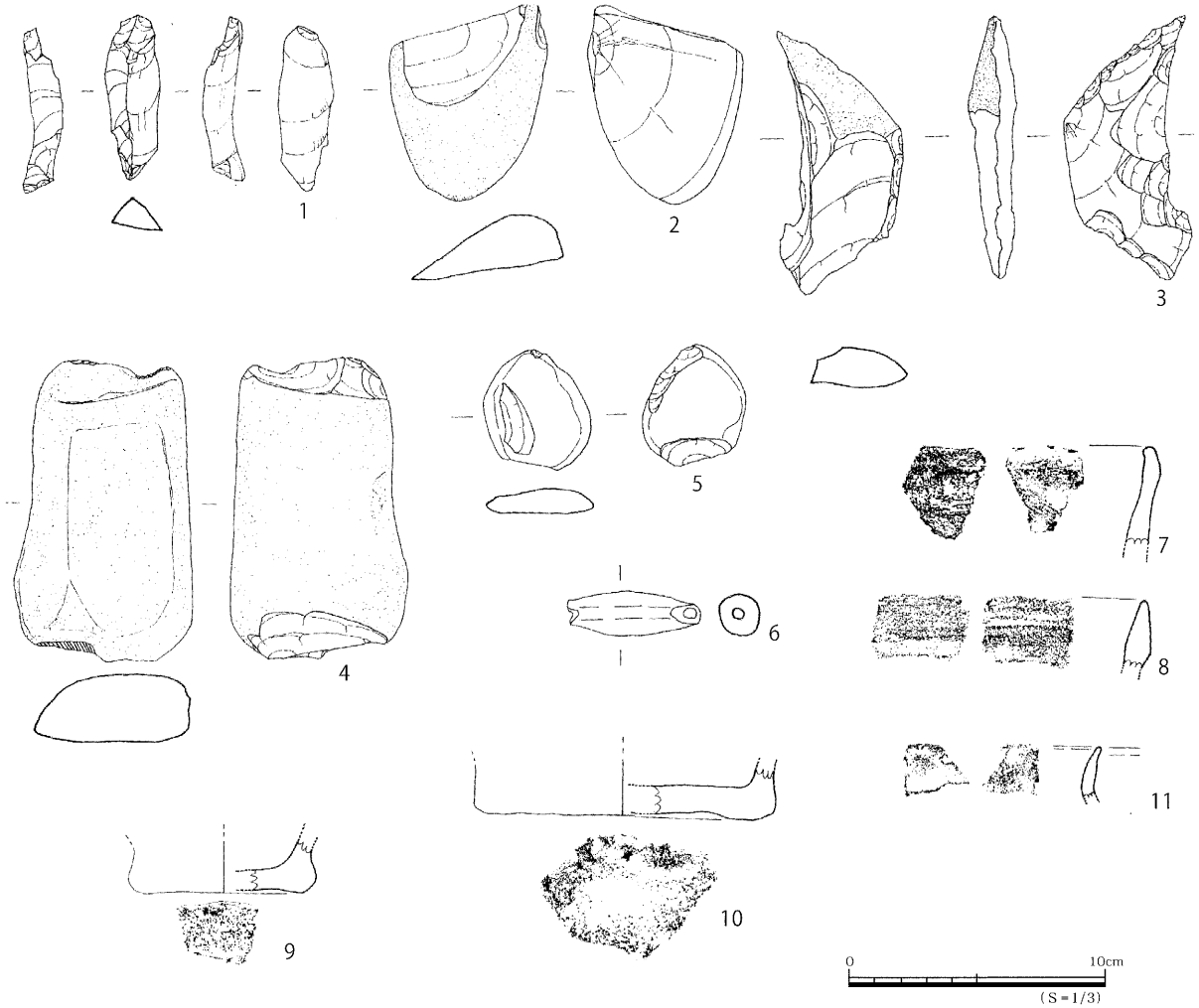

4区
94,200
94,000
3区
1号土坑
89,000
89,600
段状遺構
87,000
86,000
83,000
段状遺構
105,600
2区
82,000
106,000
2号土坑
段状遺構
82,000
81,000
段状遺構
1号溝状遺構
1区
82,000
107,000
撹乱
6区
103.600
103.600
103.800
5区
0
20m
(S=1/400)

4.遺構配置図(1/400)



5.遺構実測図(1/30,1/40,1/60)

３区で検出した１号土坑は、一部用地外へ延びるため詳細は不明である。検出面での直径は約６６ｃｍ、深さは約３０ｃｍで断面はすり鉢状を呈する。出土遺物は無い。２号土坑は、平面形が一部花弁状を呈し、長軸約３．８ｃｍ、短軸約３．４ｃｍ、深さは一番深いところで約７５ｃｍを測る。床面はほぼフラットでやや硬くしまるが、木の根による撹乱の影響も大きい。壁面には、昇降のためかいくつかの段が作られている。出土遺物は無い。



6.出土遺物実測図(1/3)

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長cm (器高)	最幅cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
1	6区	一括	加工を有する剥片 流紋岩	打面を有す		7.0	2.1	1.2	20.0
2	1区	一括	使用痕剥片 砂岩	自然面が残る		7.2	6.1	2.1	145.0
3	2号土坑	一括	礫器 砂岩	自然面が残る。埋土内出土		10.7	4.2	1.5	80.0
4	1区	一括	礫器 砂岩	側面に磨痕あり		12.2	7.2	2.7	405.0
5	2区	一括	石錘 千枚岩	打欠石錘		4.7	4.4	1.0	33.0
6	2区	一括	土錘	灰褐色～赤褐色 指押さえ ナデ		5.5	1.8	0.1~0.2mmの砂粒含む	良好
7	6区	V層	深鉢 口縁部	無文土器 ナデ 黒赤褐色 ススナデ 指圧痕 赤褐色 ス	ス付着			1mm程度の粒子含む	良好
8	2区	一括	深鉢 口縁部	貼付突帯文 灰赤褐色 ナデ	ナデ 指圧痕 赤褐色			1mm程度の粒子含む	良好
9	1区	一括	深鉢 底部	ナデ 指押さえ 赤褐色	ナデ 指押さえ 赤褐色 ス	ス付着		7.7	1mm程度の粒子含む	良好
10	1区	一括	深鉢 底部	ナデ 指押さえ 赤褐色	ナデ 指押さえ 赤褐色		12.5	1mm程度の粒子含む	良好
11	6区	一括	鉢 口縁部	ナデ 淡黄橙色 ス	ス付着	ナデ 灰褐色 ス	ス付着		1~5mm程度の砂粒含む	良好

7.出土遺物観察表

遺物は特徴的なものを報告する。1は流紋岩製の加工を有する石器である。断面が三角形の縦長剥片の下部に若干の加工が見られる。打面を有する。2は礫の端部から剥離した剥片を半分に折り内湾する部分を刃部として使用したもので、刃こぼれが顕著に見られる。3は砂岩製の礫器で自然面を有する。加工は全体に粗い。4は長方形の平たい礫の両端部に加工を施したものである。一側面に磨痕が残る。5は平たい円礫の両端を打ち欠いた石錘である。片方の調整は雑である。6は土錘である。両端部が欠けている。7は無文の縄文土器で口縁部がやや内傾する。8は貼付け突帯文を有する粗製深鉢土器である。9と10はその底部と思われる。10はやや上げ底気味である。11は小型の鉢の口縁部である。口縁部はやや外反し、端部は指によるつまみ出しが見られる。

Ⅲ. おわりに

今回の農道整備事業に伴う埋蔵文化財調査では、調査区が農道拡幅部分のみに限定された上に流土防止の為に土手部分を確保する必要があり、遺構検出に十分な幅を確保できなかった。また、木や竹の根による撹乱により調査できる部分が限られ、遺構の検出に困難が生じた。このような状況の中で土坑2基、溝状遺構１基、段状遺構及び柱穴を検出した。遺構に伴う遺物がなく、時期については不明である。

遺物では、旧石器時代の加工を有する剥片、縄文時代の石器・土器、弥生～古墳時代の土器が出土したが、ほとんどは埋土中からの出土である。また、土錘・石錘の出土もあり、五ヶ瀬川及び五ヶ瀬川に注ぐ小河川に生息する川魚の獲得という生活の一端を示す資料となった。

旧石器時代では、遺構の検出はなく、包含層からの出土遺物も少ない。工事の多くが包含層までに達しないため、大部分は保存される形となった。遺物のほとんどは、埋土中から出土している。近接地域ではAT層が確認され、さらにその下位の層から遺物の出土例が増加している。また、蔵田遺跡や矢野原遺跡などの堆積状況から、周辺には良好な包蔵地が予想される。今後の開発行為には十分注意する必要がある。

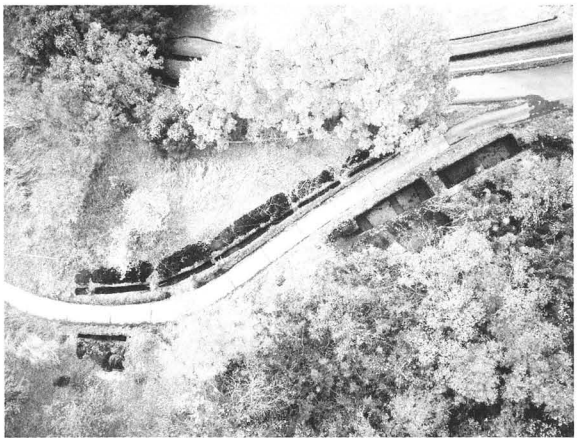
縄文時代では、埋土中から土器や石器が出土したが、集石遺構や連結土坑などの検出はなかった。埋土中には焼けた礫も混じることなどから、周辺には集石遺構の存在が予想される。

当地域における弥生～古墳時代の竪穴住居跡の検出例は、これまでの調査例に最近調査された延岡～北方道路の調査事例を加えると50例を超える。その中には、急傾斜地や尾根の端部などから検出した竪穴住居跡の調査例もあり、山間部における集落のあり方を考える上で興味深い。今回は検出できなかったが、今後、周辺の開発事業と調整しながら継続して調査を行える体制を構築したい。

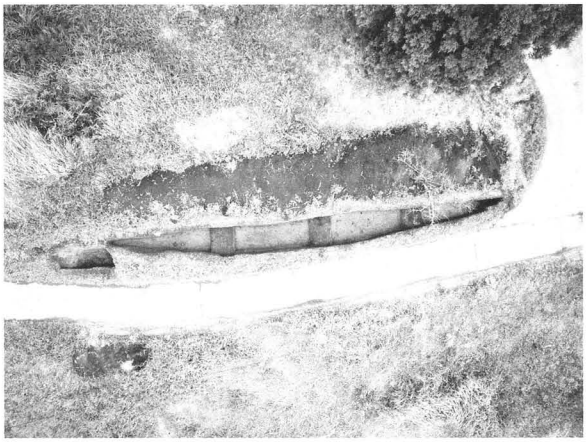
傾斜地における段状遺構の確認は、改めて当地域の遺跡の立地について再確認することができた。遺物を伴わないため時期等詳細は不明であるが、柱穴との関連など今後の調査例の増加に期待したい。

8.殿上遺跡空中写真①（北東から）

9.殿上遺跡空中写真②

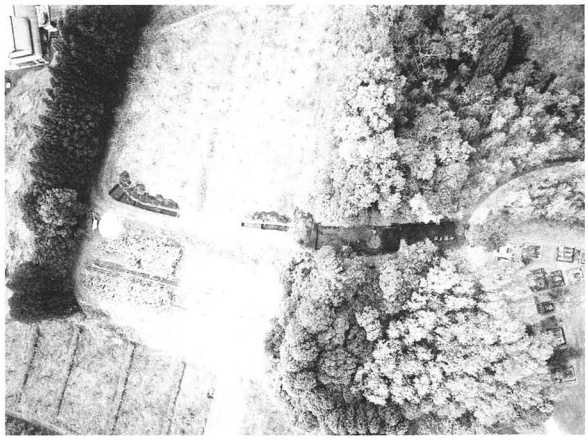


10.1区･2区空中写真



11.3区空中写真

12.4区近景(南から)

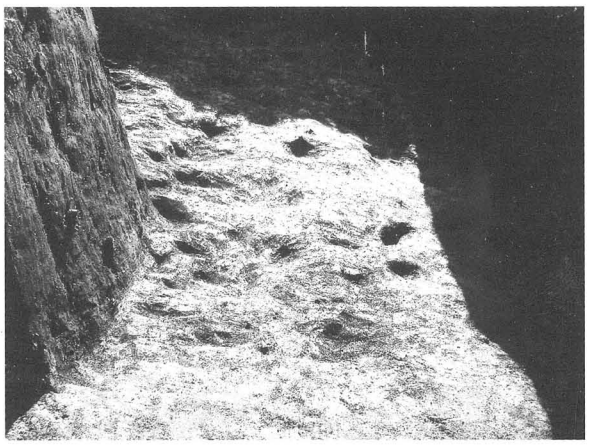


13.5区･6区空中写真

14.6区近景(南西から)

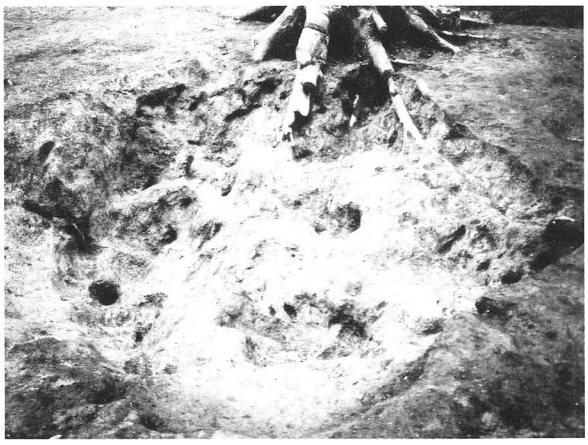
15.1号溝状遺構検出状況(1区・北東から)

16.段状遺構検出状況(1区・北東から)

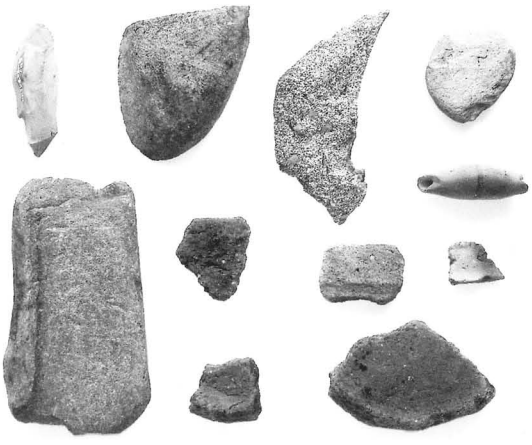


17.段状遺構検出状況(2区・北東から)

18.1号土坑検出状況(3区・北西から)



19.2号土坑検出状況(6区・北東から)



20.出土遺物(No.1～11)

報告書抄録

フリガナ	トノウエイセキ
書名	殿上遺跡
副書名	平成20年度蔵田(駄小屋)地区農道整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	延岡市文化財報告書
シリーズ番号	第４０集
編集者名	小野信彦
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路２－１
発行年月日	平成２１年３月３１日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東緯	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
カミザキ 上崎地区遺跡	延岡市 北方町 蔵田辰	2033	３２	32° 34′ 53″	131° 30′ 48″	2008.8.18～ 2006.1.31	170	農道整備事業 に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	主な遺物
殿上遺跡	包蔵地	旧石器・縄文時代 弥生・古墳時代	土坑２基 溝状遺構	土器・石器等	段上遺構の検出

殿上遺跡
延岡市文化財報告書
第４０集
平成21年3月31日

発行　延岡市教育委員会
〒882-8686
宮崎県延岡市東本小路2-1

印刷　安井株式会社
〒882-0697
宮崎県東臼杵郡門川町大字加草2725番地